

老人と障害者の自立のための

39th 国際福祉機器展 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2012

会 期：2012（平成24）年9月26日(水)～28日(金)
会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール（東京都江東区有明）
出展社数：約540社・団体（日本482社・団体、海外58社）※見込み
開場時間：午前10時～午後5時
入 場 料：無料（登録制：当日または事前）
主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

【開催内容】（予定）

- ①福祉機器約20,000点を総合展示
- ②国際シンポジウム：「税と社会保障の改革で財政危機と高齢化に立ち向かう ～デンマークの取り組みは日本に生かせるか～」(27日)を開催。
- ③H.C.R. セミナー：
福祉職から一般、福祉利用者、家族を対象に、「腰痛を予防する介護の方法」「高齢者住宅等の選び方」「生活保護3兆円の衝撃」「福祉施設でのサービス向上のための創意・工夫」「社会福祉施設等における生きものの活用」「感染症の知識と対応」など、保健・福祉・介護をテーマに連日開催。
- ④出展社によるプレゼンテーション
- ⑤H.C.R. 特別企画
 - (1)はじめての福祉機器選び方・使い方セミナー：
基本動作編、自立支援編、住宅改修編から10コースを設定して講義を実施。
 - (2)高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー～片手で使えるモノ展：
高齢者や障害者の日々の生活を便利にするグッズや工夫がなされた製品の紹介コーナー。今回は片手で使うのに便利な製品に展示テーマを絞り込み、「片手で使えるモノ展」として開催。
 - (3)知っているとこんなに便利！IT機器の福祉的活用講座：
携帯電話やスマートフォンなど身近な機器による福祉的利用方法についての解説・実演。
 - (4)ふくしの相談コーナー：福祉機器や自助具などの相談コーナーを設置。
 - (5)障害児のための「子ども広場」：子ども用福祉機器の展示に加え子どもにあった福祉機器相談・療育相談も実施。
 - (6)福祉機器開発最前線：現在開発中の製品や新発表の福祉機器のデモンストレーション・展示。
 - (7)高齢者世帯向けの手軽な日々の食事～市販の弁当・惣菜も工夫しだいでこう変わる：
市販の弁当や惣菜も工夫次第で栄養バランスの採れた食事に。とくに飲み込む力が弱い方でもおいしくいただける食事の調理法を実演・紹介。
 - (8)ふくしの防災・避難用品コーナー：福祉施設向けの防災用品や被災地で役立つ福祉機器を紹介。
 - (9)被災地応援コーナー：東日本大震災で被災した東北地方のセルフ（障害者授産施設）製品を販売。

その他にも、多彩なプログラムを実施予定。

I 国際シンポジウム

H.C.R.2012 では、デンマークの税制や社会保障政策の行政関係者を招き、デンマークの税や社会保障に関する情報を提供いただくとともに、わが国の関係分野の専門家との意見交換をおこなう国際シンポジウムを開催します。

テーマ：税と社会保障の改革で財政危機と高齢化に立ち向かう

デンマークの取り組みは日本に生かせるか〜 手話通訳

わが国では「社会保障と税の一体改革」との政策の検討が進められ、2年後には社会保障の財源を確保するために消費税が段階的に引き上げられます。これは、人口の高齢化やそれに伴う年金・医療・介護などの社会保障費用の拡大に対し、政府が消費税の改革によって安定財源を担保することを決定したということです。

H.C.R.2012 国際シンポジウムでは、EU の加盟国であり、高い税負担によって高福祉社会を実現しているといわれるデンマークの国税省の行政関係者で、福祉行政にも通じた講師を招き、デンマークにおける社会保障政策に対する考え方、現状と課題などを報告・説明いただき、それを踏まえてわが国の今後の社会保障制度と財政再建のあり方を考察します。

○開催日時：2012年9月27日(木) 13:00～16:00

○会場：東京ビッグサイト・会議棟6階「605-608 会議室」

○講師：Ole Kjaer (オーレ・ケアー) 氏

(デンマーク国税省・税制度検討推進役、元デンマーク国税・関税管理局局長)

※プレスリリースNo.1 から講師が変更になりました。

○チューター：近藤 純五郎氏 (元厚生労働事務次官、弁護士)

○参加費：1,000円

※参加申込はH.C.R.Webサイト (<http://www.hcr.or.jp>) にて受け付けています。

講義要旨

デンマーク情勢は他の EU 諸国と比較して良好な状況にあるといわれている。例えば、政府発表の失業率は欧州地域の平均 11.1%に対して 6.2%である。技術的な景気後退にも関わらず、2012 年第 1 四半期の GDP は 0.4% 上昇した。デンマーク通貨のクローネが強いため、外国投資家がクローネ債務を積極的に購入することで、事実上デンマークに対して資金を供給している格好になっているような側面もある。

財政赤字も GDP 比で 1.8%と、ほかの多くの欧州諸国と比較して良好である。同時に、デンマークの公共支出と税収入の GDP 比は欧州諸国の中で最大である。

しかしながら、人口構造の変化は、福祉予算と税収入の両面において課題となりつつある現状もある。

今回の講演では、史上最高の税と高い公共支出からなる高所得国家がどうして経済的側面からこのように比較的良好な地位にあるのかを説明し、デンマークの社会保障制度とその資金調達の仕組みについて分析する。

デンマークでは、社会保障に関する費用は政府支出によってほとんどすべてが資金供給されており、税金は特定財源としては割り当てられていない。デンマークの税率は、25%の消費税 (VAT) や平均収入の約 40～50% 水準の所得税など世界最高である。さらに、大規模課税を通じたエネルギー消費や環境問題への取り組みという面では、行動様式の変化を促進しようとする要求によってもデンマークの税制は動かされる。今回の講演では、法的規制によって雇用者に対して負担が課される制度と比較しながら、より透明性が高い税制の長所と欠点について説明する。

一方で、ほかの欧州諸国や日本などと同様に、デンマークも人口構造の変化に起因する社会保障予算の増大という事態に取り組むべき局面に直面している。さらに、税負担は労働供給という課題解決の手段でもあるわけだが、欧州債務危機は均衡のとれた財政を必要としており、経済成長を刺激する可能性は限られている。

今回の講演では、今日の欧州経済情勢と社会保障予算への影響を解説するとともに、デンマークで実施されて

いる税制・社会保障制度改革についても分析する。デンマークの今日の戦略は、労働供給増加のために所得税を減税し、その結果として経済を刺激し、多くの雇用を創出することで、2020年までに公的予算の均衡を実現させることをめざすものであるが、その点についても解説する。

講演のまとめでは、前述したトピックの長期的な展望も行い、スカンジナビアの福祉モデルは高齢化人口に対する取り組みとして長期的に維持・存続していくことができるのか、その見通しについて考察をしたい。

講義骨子 (予定)

1. デンマークの経済状況について

その構成： 所得税、間接税 (VAT)

◆EU 諸国、日本との比較。80年代、90年代の公共経済の立て直しについて。

◆一人当たり国内総生産；賃金—特に社会福祉部門；国際収支；公共支出の GDP 比；負債比率について。

2. デンマークの社会保障制度について (EU そして日本との比較)

◆年金、失業、健康保険そしてその財源 (第一に税を財源とする、そして、年金のための労働協約について)

◆支出の国内総生産に占める割合 ◆製造業者の平均賃金に占める納付率

◆デンマークの「柔軟性と安全性」システムの解説

3. デンマークの税制度について (EU そして日本との比較)

◆GDP に占める割合。平均的被雇用者の税の支払いの標準

◆その構成：所得税、間接税 (VAT)、関税

◆高い税が受け入れられている理由。「開かれた (オープン) 税制度 (方式) (間接税方式ではない税制度のことを指している)。ほとんどの人が福祉の恩恵を享受している。

◆なぜ公共支出に結びついている特定財源がないのか。その良い点と悪い点。

◆VAT (付加価値税) としての消費税

◆労働力の創出努力と「環境税」から消えた財源

4. 近未来への挑戦

◆高齢化 (EU そして日本との比較)

◆債務危機 (公共債の GDP 比の EU、日本、アメリカとの比較)

5. 2020 に向けての目標と戦略

◆公共予算バランス ◆労働人口の増強 ◆競争力の改善 ◆低い失業率

◆環境経済

6. 社会保障の改革

◆定年年齢の引き上げ

◆国民年金を給与内で作り出すことにより、管理もしくは調整していく

◆早期退職を段階的に廃止していく (定年前の退職)

◆失業手当の給付期間の短縮化 ◆貧困者の生活保護の現金支給システムの改良

7. 税制改革

◆労働税の削減 ◆受動的所得にかかる税の増額 ◆環境税

◆増加した投資財減価償却 ◆金融部門への増税

8. サマリー

未来の福祉システムとはどのようなものであろうか。

◆ハンモック効果 (長期的には、福祉給付の財源となる歳入不足)

II H.C.R.セミナー

H.C.R.2012 では、わが国の保健福祉・介護・医療分野におけるさまざまな課題を取りあげ、福祉・介護職の資質向上と情報提供のため「H.C.R.セミナー」を開催します。

今年は、福祉施設で実践されている福祉・介護サービスの工夫事例の発表をもとに、質の向上をはかるための知識や技術、実践例などを学んでいただく講座を充実させ構成しています。ぜひ、ご参加ください。

※プレスリリースNo.1 でお知らせしたプログラムに加え、今日大きな社会的問題となっている生活保護の問題を採り上げ、「生活保護 3 兆円の衝撃」をテーマに講座を行います。同タイトルのHNKスペシャルの番組制作に携わったチーフプロデューサーにご登壇いただき、福祉関係者をはじめ一人一人がこの問題とどう向き合っていくべきなのかを考察します。

開催日：2012年9月26日(水)～28日(金)

会場：東京ビッグサイト・会議棟6階「605-608 会議室」及び7階「703 会議室」

◆プログラム（予定）

9月26日（水）

時間	テーマ	対象者	会場
11:00～12:30	腰痛を予防する介護の方法・基本編	一般、福祉利用者・家族向け	会議棟 6F
13:30～15:30	福祉施設における感染症の知識と対応	福祉職向け	会議棟 7F
13:30～15:30	生活保護 3 兆円の衝撃※2	福祉職向け	会議棟 6F

9月27日（木）

時間	テーマ	対象者	会場
10:30～12:00	有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅等の現状と選び方	一般、福祉利用者・家族向け	会議棟 6F
13:30～15:30	社会福祉施設等における生きものの活用～動物愛護から生物多様性保全まで	福祉職向け	会議棟 7F

9月28日（金）

時間	テーマ	対象者	会場
11:00～12:30	福祉施設で実践されている福祉サービスの「創意・工夫」の取り組み① (危機管理に対する取り組み)	福祉職向け	会議棟 6F
13:30～15:30	福祉施設で実践されている福祉サービスの「創意・工夫」の取り組み② (ケアの場面における創意・工夫)	福祉職向け	会議棟 6F
13:30～15:30	福祉施設で実践されている福祉サービスの「創意・工夫」の取り組み③ (地域社会との関わりやセーフティネットづくりに向けた取り組み)	福祉職向け	会議棟 7F

1. 会場は変更となる場合があります。
2. 「生活保護 3 兆円の衝撃」では、同タイトルのNHKスペシャルを制作された取材班のチーフプロデューサーにご講義をいただく予定ですが、報道機関という特性上、大きな事件・事故などの発生によりご登壇が難しくなった場合には、プログラムを急遽中止せざるを得なくなる可能性がありますことをご承知おきください。
3. 各プログラムの定員・事前登録の有無、手話通訳の有無等については、次頁以降のプログラム紹介をご確認ください。

9月26日(水)

1. 腰痛を予防する介護の方法・基本編 **手話通訳** **共通資料**

腰痛は介護する方にとって重い課題です。ある調査では介護職の約8割の方が腰痛を経験しているとしています。この福祉機器展を開催するきっかけも介護する方の腰痛予防対策を考えるためでした。介護時において腰痛にならないようにする工夫はいくつかあります。リフトなど機器の使用、住環境の改善、介護者の体力改善、適切な介護の仕方(技術)の習得などです。介護をする方は、これらの要素を組み合わせることで腰痛予防をおこなっていく必要があります。

この講座では腰痛を予防する介護技術の基本を学びます。

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月26日(水) 11:00～12:30

○講師 青柳佳子 氏 目白大学短期大学部 生活科学科 専任講師

2. 福祉施設における感染症の知識と対応 **共通資料**

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。とくに高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

本講座では、高齢者・障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学びます。

○会場 会議棟 7F 703 会議室 定員 90名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月26日(水) 13:30～15:30

○講師 安井良則 氏 国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官

3. 生活保護 3兆円の衝撃 **共通資料**

わが国の生活保護をめぐる状況は、受給者数が2012年3月末には210万人を突破して過去最多となり、2012年度の生活保護の支給額は3.7兆円を超える見通しです。

若年化、高齢化による受給増の一方、不正受給や貧困ビジネスの拡大などの問題が露わになり、国は社会保障審議会の検討会などで生活困窮者の対応の検討に入っています。

今日、経済的な貧困のみならず深刻な生活問題のある生活困窮者の実態にあって、社会福祉関係者は、この緊急性の高いニーズを受けとめ、実態や事実を正しく把握し、セーフティーネットを担うという役割を果たすための主体的な取り組みが喫緊の課題だといえます。

そこで、本講座では、NHKスペシャル「生活保護 3兆円の衝撃」の制作スタッフにご登壇をいただき、取材や番組制作を通じて見聞きした現場の実態から分かってきたこと、制度的な矛盾や課題、この課題に対して今後どのような向き合い方が考えられるのかなどについてご講義をいただき、この問題に対する認識の喚起と対応を考察する場として開催いたします。

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月26日(水) 13:30～15:30

○講師 前田浩一 氏

NHKスペシャル「生活保護 3兆円の衝撃」取材班 チーフプロデューサー

※本講座については、講師が報道機関に勤務されているため、大きな事件・事故などの発生によりご登壇が難しくなった場合、プログラムを急遽中止せざるを得なくなる可能性がありますことをご承知おきください。

9月27日(木)

4. 有料老人ホーム、サービス付高齢者住宅等の現状と選び方 **手話通訳** **共通資料**

現在、特別養護老人ホームでは多くの待機者がかかえ、とくに都市部では入居がとても困難になっています。そのため有料老人ホームや高齢者向け賃貸住宅など高齢者を対象とする入居施設や住宅の種類が増え、さまざまな形態がみられるようになりました。また昨年10月には高齢者住まい法が改正され、これまでの高齢者専用賃貸住宅などに変わり「サービス付き高齢者住宅制度」が創設されています。

しかし、施設や住宅の急激な増加により、一部の施設や住宅では設備やスタッフの配置が十分ではなく、利用者のニーズや課題に応えきれないとの指摘もあります。

本講座では、ここ最近大きく変化している高齢者向けの施設や住宅の最新状況と、選び方のポイントを紹介し、高齢者住宅の制度を知り、将来の利用について考える機会とします。

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月27日(木) 10:30～12:00

○講師 小瀬有明子 氏 NPO 法人シニアライフ情報センター理事

5. 社会福祉施設等における生きものの活用～動物愛護から生物多様性保全まで **共通資料**

「社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会」では、これまで福祉施設の温暖化防止との取り組み、農業や地域おこしの取り組みなどについて事例報告をしました。今回は社会福祉施設等における生きもの、老人ホームで活躍するかつては捨て犬だったセラピー犬、貴重な自然資源として知的障害者の雇用機会の創出につながるエゾシカの皮の活用などの実践を発表し、動物愛護や生物多様性について考えます。

○会場 会議棟 7F 703 会議室 定員 90名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月27日(木) 13:30～15:30

○事例発表者等 ①老人福祉施設でのセラピー犬の活用

伊藤裕成 氏 NPO 法人日本レスキュー協会理事長

②エゾシカの皮の利用を障害者雇用につなげる

菊地貞雄 氏 NPO 法人あうるず専務理事

○司会・進行 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会

9月28日(金)

6. 福祉施設で実践されている福祉サービスの創意・工夫の取り組み **共通資料**

福祉施設の現場では、職員等が利用者への援助・支援において創意・工夫をはかり、福祉・介護サービスの質の改善や地域の福祉向上がはかられています。こうした質の向上をはかるための創意・工夫の実践事例には、多くの福祉施設で活かせるアイデアとノウハウがあります。

本講座では、創意工夫の情報を共有することで福祉サービスの質の向上をはかることを目的として、高齢者・障害(児)者施設等で取り組まれている実践事例を紹介します。

①危機管理に対する取り組み

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月28日(金) 11:00～12:30

○発表事例(予定)

「災害想定訓練～食事の安全な提供に向けて」

「送迎時の車両事故防止策に固定チームを導入して」

「男性浴室における事故の減少のための環境改善」

②ケアの場面における創意・工夫

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250 名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月28日(金) 13:30～15:30

○発表事例(予定)

「現場ですぐに役立つテキスト(手引書)を現場でつくる」

「特別養護老人ホームにおける腰痛予防の取り組み～持ち上げない介護の実践を目指して」

「暑い夏を乗り越えよう!～ひと涼みしましょうプロジェクト」

「通所介護における科学的介護の実践—口腔機能向上の取り組み」

「漬物つけたんでえ。食べてみて～片麻痺利用者の調理活動へのチームアプローチ」

③地域社会との関わりやセーフティネットづくりに向けた取り組み

○会場 会議棟 7F 703 会議室 定員 90 名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○日時 9月28日(金) 13:30～15:30

○発表事例(予定)

「認知症になってもこの街に住みたい」

「福祉と農業による地域の活性化をめざす」

「家族会を中心としたNPO法人設立による法人後見への取り組み」

「生活保護受給者を自法人にて雇用の事例」

「地域生活定着支援センター・セーフティネット拠点事業」

※題名の横に「共通資料」マークのついたプログラムは、各プログラム共通の講座資料を1部1,000円で販売します。

※H.C.R.セミナー、特別企画への参加自体に係る費用は無料です。

※題名の横に「手話通訳」マークのついたプログラムは、手話通訳を行います。

III. H.C.R.特別企画

展示会との併催でホール内特設会場において行う各種「特別企画」も、さらに内容の充実を図り実施いたします。概要は前述の【開催内容】のとおりですが、詳細なプログラムとしては、現段階で以下のような予定をしています。

※H.C.R.特別企画は、期間中終日設営されます。プログラム名の後の〔 〕はその企画のセミナーや製品デモンストラーションが行われる時間帯です。

(1)はじめての福祉機器選び方・使い方セミナー

26日	11:00～12:00 住宅改修	13:00～14:00 トイレ・排泄用品	15:00～16:00 入浴機器	
27日	11:00～12:00 ベッド	12:30～13:30 リフト等移乗用品	14:00～15:00 車いす	15:30～16:30 自助具
28日	11:00～12:00 福祉車両	13:00～14:00 杖・歩行器等補助用品	15:00～16:00 コミュニケーション機器	

(2)高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー

(3)知っているといくらに便利! IT 機器の福祉的活用講座 [26～28日 12:00～16:40]

(4)高齢者世帯向けの手軽な日々の食事 ～市販の弁当・惣菜も工夫しだいでこう変わる

[26～28日 13:00～14:00] ※この特別企画は、セミナーのみ(展示なし)のプログラムです。

(5)福祉機器開発最前線 [26日 10:30～12:30 27日 14:30～16:30 28日 10:30～12:30]

(6) ふくしの防災・避難用品コーナー [26日 14:30～16:30 27日 10:30～12:30 28日 14:30～16:30]

※H. C. R. 特別企画のさらに詳細な準備状況については、次号のプレスリリースにてご案内いたします。

◆各プログラムへのご参加について

参加料等の条件や参加受付はHCR Web サイト(www.hcr.or.jp)で順次ご案内いたします。

※注：この内容は平成24年8月29日時点での予定です。内容や日程は予告なく変更する可能性がありますので、ご来場の際は最新情報をご確認ください。

<p style="text-align: center;">H.C.R. 2012 事務局 (財)保健福祉広報協会 〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5F TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798 http : //www.hcr.or.jp</p>
